



夏が来た！ 子供向けイベント満載の一日(7月27日)

その1 有松中学校生徒による”うちわづくり体験” 於:有松コミセン

絞りまつりのとき岡家住宅で実施され大好評。作業台の机3つは常に埋まっていた。中学生が作り方を指南する企画は新鮮で、今後有松でのイベントの新しい形を提案したものと



といえます。今回も2人の生徒さんが、参加された3組の親子にうちわの作り方を丁寧に教えていました。



(花屋Luore提供)

今日の花 ペチュニア

その2 子ども縁日 於:絞会館バス駐車場

今年も小学校近くのバス駐車場で子ども縁日が行われました。キッチンカー5台ほどが並び、唐揚げやかき氷を求める人が…縁日定番のスーパーボールすくいやヨーヨーで遊ぶ親子も見られました。



取材時はまだ日が高く訪れる人も僅かでしたが、夕方になるにつれ花火見物客も加わり賑わっていました。

その3 有松小150周年記念花火大会

於:有松小グランド

ここ数年続く、有松小学校PTAによる花火大会が今年も行われました。

今年是有松小150周年を記念しての花火大会ですので、右写真の文字に点火後花火が打ち上げられました。



小松孝泰写真展⑥ ゆかた

有松絞伝統文化親子教室2024（7月28日）於：竹田家住宅 NPOコンソーシアム有松

有松で400年に渡り培われた"有松絞の伝統文化"を末永く伝えていきたい、この「ホンモノ」価値を分かって欲しいとの思いで、昨年から"親子教室"が始められた。

コースは4つ。絞教室:写真①② まち歩き:③ 建物見学:④⑤ 歴史講座:⑥

▶**絞教室** 「実際にやってみないと分からない」のが絞り、近年の体験ブームもあり会場の三番蔵は30人程でいっぱい。無地のトートバッグに絞り柄を染めるといったもの。子ども以上に親御さんが集中して取り組んでいたのが印象的でした。

▶**まち歩き** 連日の猛暑とコロナ感染拡大もあり、午前の実施。行程は竹田家ー岡家ー祇園寺ー(長坂道)ー(五番蔵小路)ー竹田家 と"西町深堀コース"でした。参加者は少なめでしたが、東海道沿いだけでなく小路を歩くことでより有松の魅力を体感できた。

▶**建物見学** 一級建築士による名古屋市指定文化財の竹田家住宅ツアーは圧巻。子どもさんにはやや難しくもあったが、江戸時代後期の絞商屋敷の典型は一見の価値あり。とりわけ14代將軍家茂が訪れたといわれる裁松庵で茶室に座れたのは感激！

▶**歴史講座** 竹田嘉兵衛氏が絞りを中心に有松の伝統文化について語られました。参加者20人程が熱心に聴講されていた。日頃聞く機会の少ない話題であり、皆さんメモに余念がありません。

絞りは古くからアンデス・インドなどで。日本には正倉院に残っている。100年程で(室町中期～江戸初期)消えてしまった辻が花染めのこと。最後に国際絞り会議が1992年に名古屋で開かれ、模様をつけるための絞りから立体的な造形をつくるために絞る、と捉え方が変わったこと等を話されていました。

まさに有松の伝統文化を体現されている方の講話でした。



① ②
③ ⑤
④



裁松庵にて

⑥



有松絞親子体験教室2024(8月5日)於：申申居しんしんきょ(元・庄九郎カフェ)NPOコンソーシアム有松

近年絞体験を希望する方が増えている。月1回実施 全5回の体験教室にも、募集15名に対し申込130名とのことでした。

単発の体験と違い、講師の伝統工芸士久野剛資氏は「絞りの奥深い世界にはさせていただきます」

と。毎回染めたいものを持参し、やりたい技法で取り組んでいただくとのこと。初回のこの日は、トートバッグに各自工夫して・・・「絞りは実験だ」の心構えで取り組んでいた。出来栄は写真の通り、皆満足。



桜花学園大学留学生 有松で絞り染め体験 (7月23日) 於:有松・鳴海絞会館

桜花学園大学では留学生に積極的に有松のまちを学ぶ機会を設けています。単にまち歩きだけでなく、有松のまちに漂う伝統文化ともいうべきものを感じ取って欲しいと・・

絞り染め体験はその格好の手段かもしれません。この日は12名の学生さんが取り組みました。雪花絞りに挑戦ですが、丁寧に折り目を付け、見本を見ながら染め方を決めていました。実習に先立ち、竹田家住宅や山車会館を見学したのも伝統文化の一端に触れてほしいとの願いからです。短期間の留学ですが、学ぶ意欲に脱帽。



鈴木伸明写真展 汐彩 Piece of CHITA (7月28日～8月4日) 於:六弦とコットン

昨年知多半島の伝統的な建物の写真展がここで開催されました。その第2弾、今回は自然にスポットを当てた展示会です。合わせて木工作品の販売も行っていました。写真左の写真立ては記者のお気に入り。昨年今年と知多の作品を見るにつけ、知多半島の豊かさを感じ取れるとともに、改めて有松も知多の一部だと気づかされました。



有松町家ライブ サマーナイト jazz Live (8月24日) 於:寿限無茶屋



年1回開催を続けて3年目、参加者30名の半数程がリピーターとのこと。ムーンリバーなど親しみやすい曲の選曲と相まって、大変リラックスした演奏会でした。生音が聞こえるのも町家ライブの醍醐味。ヴォーカル:尾崎真希(中央),ピアノ;ナタリー成田(左),ベース:福田義明。

次回予告: 10月26日(土)10:00～,10:45～,13:00～,13:45～ 棚橋家住宅 有松茶の湯二胡ライブ
10月27日(日)14:00～棚橋家住宅 ジャズバイオリン高橋誠ユニット

接遇力向上研修① (8月6日) 主催:有松日本遺産推進協議会 於:有松鳴海絞会館

昨年に続いての開催。参加者30数名の多くは引き続いての受講、しかも講師の原口さん(写真上)・牛田さんも変わらずで、初めから和気あいあいの雰囲気でした。

全2回、1日目(8/6)は「おもてなしの基本」です。第一印象は視覚55%・聴覚38%・話の内容7%で決まるとか。好印象を与えるには笑顔・身だしなみ・立ち居振る舞いが大切。昨年以上に実践的な研修が行われました。

床に張ったテープを目印に、まっすぐ背筋を伸ばして、下を向かず頭が揺れないように歩くことは思いの外難しい。笑顔の練習や鉛筆を相手に渡すなど物の受け渡しの仕方の練習もあり、参加者が積極的に取り組まれていたのが印象的でした。

興味を惹かれた研修に、「クッション言葉ワーク」がありました。例として、「お待ちください」⇒「恐れ入りますが、少々お待ちいただけませんか」と、よりふさわしい表現にするものです。

あっという間の2時間。今後の接客・散策での案内に役立たせたい内容でした。次回2日目は、9/3に行われます。



連載 有松にお店を構えて ⑤

彩 AyaIrodori(アヤイロドリ)

西町 岡家住宅の近くにある 彩 Ayalrodori は若手職人が営むお店です。ひと際目を引くカラフルな暖簾は、きれいな万華鏡柄。多くのメディアが大須賀 彩さんの活動を取り上げています。



▶ どうして有松にお店をかまえることにしたのですか？

学生時代に絞り染めに魅了され弟子入りし10年間、ずっと自分のアトリエを構えることが夢でした。早い段階で動いたものの、2020年8月というコロナ禍でオープンし、大変な時期を過ごしました。幸いなことにオープン当初から現在までたくさんのメディアから取材をしていただき、ファンが増えています。

▶ これまでのご苦労や喜びは？

アトリエではワークショップのリピーター様が多いのが特徴です。一人で運営しているので大変なときもありますが、好きなアイテムを持ち込んで染めたり、大きな作品に挑戦したり…「次はこうしたい!」「もっとこうしてみたい!」などお客様の希望を叶えるアトリエになっております。作り上げたときの感動や完成した作品をSNSで毎日発信しています!

▶ これからのこと、こんな町になって欲しいという願いは？

私がかつて学生時代に絞り染めに対して衝撃を受けたように、多くの方に絞り染めの魅力を伝えたいと考えています。これからも素晴らしい技術と共に賑わい溢れる有松でいてほしいと願っています。

彩 Ayalrodori 営業時間 10:00~16:00 / 定休日 水曜・木曜 ☎ 052-621-6820

「2歳から体験可能で、子供から大人まで楽しめるワークショップをご用意しております。有松では珍しい1名様から体験を受け付けています!是非遊びに来てください。」

催事・行事予定

- 9月1日(日) 13:30 有松絞親子体験教室 2024(第3回) 申申居(旧庄九郎カフェ) コンソーシアム有松
- 9月3日(火) 13:30 現役客室乗務員から学ぶ接客力向上研修 絞会館 有松日本遺産推進協議会
- 9月4日(水) 17:30 岡家住宅活用に向けたワークショップ 岡家住宅・モスアリマツ 歴史まちづくり推進課
- 9月9日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン
- 9月22日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 9月30日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン
- 10月6日(日) 有松天満社秋季大祭「山車まつり」 有松天満社文嶺講

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)
編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)
pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

㊦ 柵屋の賑わい③ ハセル

2年ほど前に開いた器のお店です。お盆中にもかかわらず、賑わいを見せる店内。常滑などに工房を構える作家の工芸品を、女店主が1点ずつ集め、置かれている。

その思いに応えるかのように手に取るお客様。有松の奥深さを感じる空間でした。



《編集後記》

猛暑にもかかわらず、有松を訪れる人は少なくない。何が人を惹きつけるのか考えたい。

